

意見文を比べて読む〈宮崎の方言〉

組 番 氏名

とも子さんの学級では、方言についての学習をしたあとに、先生が、文化庁の「国語に関する世論調査」の結果の一部と、このことについて書かれた二つの意見文を紹介してくれました。

次の「国語に関する世論調査」の結果の一部と二つの意見文A・Bを読んで、あとの問いに答えましょう。

「国語に関する世論調査」の結果の一部

- 共通語と方言について、どの考えに近いですか。
- ア 相手や場面によって共通語と方言を使い分ければよい。…………… 79・2%
  - イ 基本的に共通語を使い、方言はできるだけ使わない方がよい。…………… 13・6%
  - ウ どちらとも言えない。…………… 6・3%
  - エ 分からない。…………… 0・9%

※「平成二十二年度 国語に関する世論調査」（文化庁）より作成

意見文A

わたしは、「相手や場面によって共通語と方言を使い分ければよい」という考えに賛成である。

その理由は、すべての人が共通語を使い、方言を使わないようにすると、方言がなくなってしまう、ふるさとに対する思いもなくなってしまうと思うからである。

わたしは、子どものころ、小学校四年生までは宮崎に住んでいたが、五年生に進級すると同時に、父の仕事の関係で大阪の学校に転校した。友達は、すぐにできたが、周りのみんなが関西の方言で話をしてるので、時々、言っていることが分からなかったり、独特の話し方に怒っているのかなと感じたりすることがあり、なかなか言葉になじむことができなかった。中学生の時に宮崎にもどってきたのであるが、一番に帰ってきたことを実感したのが、「てげてげ」「よだきい」といった宮崎の方言であった。宮崎人の大らかさを表しているようで、聞いてほっとしたことでも覚えていた。

方言は、伝統や文化にささえられたその地方ならではの言葉である。方言を聞くことで、自分のふるさとを実感することができる。だから、方言をしっかりと守りながら、相手や場面によって共通語を使うようにするとよいと考える。

意見文B

わたしが、小学生のころに、家族で熊本の本家の祖父の家に行った時のことであった。お客さんが来られたようだったので、わたしが玄関のドアを開けると、男性の年配の方が立っていらっしやった。「何かご用ですか？」

